

## WG 設置申請書

作成者：塩原 等

1. 名 称 英文名称は Sub Committee を付記	過大外力に対する建築と都市の性能 WG	英文 名称	Working Group for resilient build-environment suffered from extreme loads larger than expected																																																																																
2. 所属本委員会 (所属運営委員会)	巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会																																																																																		
3. 設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2014 年 3 月																																																																																		
4. 設 置 目 的	<p>(具体的な目標)</p> <p>設計荷重を超える荷重(過大外力)に対して、1) 建築物の設計と性能の現状はどうなっているのか。2) 将来に向けて建築学会が果たすことの出来る役割は何かについて、現状分析と提案を行う。</p> <p>その上で、従来の構造設計規準体系に加えて、断層の破壊などの結果として起こりえる上限の荷重・外力に対して、構造物がどのように挙動し破壊するかまでの見極める新たな性能評価体系の実現のための目標を設定しロードマップを作成する。そしてこれらの成果を幅広く学会員に公表する。</p>																																																																																		
5. 委員会の位置付け	<p>(学会に設置する必要性、緊急性、新規制及び委員会の性格)</p> <p>巨大な地震・津波・竜巻・衝突・爆発等の自然・人為的極端現象に対して、設計上考慮すべき荷重・外力を発生頻度に応じて調節し、それを超える場合には何が起こるかを評価の対象としない今までの建築学会の規準体系は、再考が求められている。従来の規準体系の下ではこれを想定外としか説明できない。学会の社会における立ち位置を明確にし、従来の構造設計規準体系に加えて、断層の破壊などの結果として起こりえる上限の荷重・外力に対して、構造物がどのように挙動し破壊するかまでの見極める新たな性能評価体系を模索する。</p>																																																																																		
6. 委員会の構成 (確定している委員予定者名簿を記載のこと。必ず会員名簿を記入すること)	<p>(委員構成の考え方、分野別構成、地域性、公募制等)</p> <p>大学・研究・行政・保険・設計・発注者等の異なる立場から委員を選任する。必要に応じて WG 委員を追加することを予定している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>会員番号</th> <th>役職</th> <th>氏 名</th> <th>勤務先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>8106800</td> <td>主査</td> <td>塩原 等</td> <td>東京大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>8914122</td> <td>幹事</td> <td>前田 匡樹</td> <td>東北大学</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0314506</td> <td></td> <td>壁谷澤寿一</td> <td>独立行政法人建築研究所</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>8606054</td> <td></td> <td>坂本 成弘</td> <td>大成建設技術研究所</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>0821561</td> <td></td> <td>高見 真二</td> <td>独立行政法人建築研究所</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>9010905</td> <td></td> <td>辻 泰一</td> <td>鹿島建設構造設計部</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>8811120</td> <td></td> <td>渡辺 一弘</td> <td>UR 都市機構</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			No	会員番号	役職	氏 名	勤務先	1	8106800	主査	塩原 等	東京大学	2	8914122	幹事	前田 匡樹	東北大学	3	0314506		壁谷澤寿一	独立行政法人建築研究所	4	8606054		坂本 成弘	大成建設技術研究所	5	0821561		高見 真二	独立行政法人建築研究所	6	9010905		辻 泰一	鹿島建設構造設計部	7	8811120		渡辺 一弘	UR 都市機構	8					9					10					11					12					13					14					15				
No	会員番号	役職	氏 名	勤務先																																																																															
1	8106800	主査	塩原 等	東京大学																																																																															
2	8914122	幹事	前田 匡樹	東北大学																																																																															
3	0314506		壁谷澤寿一	独立行政法人建築研究所																																																																															
4	8606054		坂本 成弘	大成建設技術研究所																																																																															
5	0821561		高見 真二	独立行政法人建築研究所																																																																															
6	9010905		辻 泰一	鹿島建設構造設計部																																																																															
7	8811120		渡辺 一弘	UR 都市機構																																																																															
8																																																																																			
9																																																																																			
10																																																																																			
11																																																																																			
12																																																																																			
13																																																																																			
14																																																																																			
15																																																																																			

7. 活 動 計 画	<p>(活動の具体的方法、内容)</p> <p>初年度： 設計荷重を超える荷重（過大外力）に対して、1) 建築物の設計と性能の現状はどうなっているのか。2) 関わりのあるステークホルダーは何か。3) それぞれの立場では、過大外力に対する性能をどのように期待しているのか。4) 今やっていることはなにか。5) 今わかっていることは何か。について <b>WG</b> における討議を行い、現状分析を行う。 さらに、6) 将来に向けて解明すべきことは何か。7) それぞれの立場で可能なことは何か。8) 将来に向けて建築学会が果たすことの出来る役割は何か。9) その目標は何か、10) 実現のためのロードマップはどう成るかについて提案を行う。</p> <p>2年度：</p>		
8. 期待される成果と公表方法	<p>(内容と公表形態)</p> <p>これらの現状分析と提案を整理し、東日本大震災に対する日本建築学会の二次提言とまとめ幅広く公開するとともに、検討結果の報告書を作成し学会員に提案する。</p>		
<p>9. 設置を予定するWG</p> <p>英文名称は <b>Working Group</b> を付記してください。 (WG がなければ記載不要。WG が2つ以上ある場合はこの欄を追加してそれぞれ記載すること。必要なら各WGごとに小委員会設置申請書と同様の書式のを添付する)</p>	名称：	英文名称	
	目的：		
期間： 20 年 月 ～ 20 年 月			

注 1) 各項目に関して提示された事項に注目して記述してください。

注 2) 合同小委員会、研究会を設置する場合にもこの書式を準用してください。